



2007

The Natural Science Publishers' Association of Japan

No. 2

自然科学書協会会報

発行人・志村 幸雄
編集・広報委員会
発行・2007年4月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL: <http://www.nspa.or.jp/>

● わたしと読書

医学・医療の周辺 ～ 読書の谷間

日本赤十字社医療センター名誉院長

東京大学名誉教授 森岡 恭彦

近年、医学・医療の進歩により臓器移植、遺伝子治療、生殖補助医療といった領域ではフィクションの世界が現実化され、生命そのものの価値が見直されています。またこれまで医師は患者の生命を一刻でも延ばそうと努力してきたのに、終末期患者では単なる延命治療よりも患者の生命・生活の質(QOL)をより重視し、時には延命医療の中止、安楽死も考慮すべきであるといった考えも強調されています。また古くから信奉されていた医師の良識に基づく慈善の行為としての医療も20世紀後半になりますと、このような医療倫理はパターナリズム(親権主義)と批判され、患者の権利主張の波に吞まれて、アメリカを中心に患者の自己決定権とかインフォームド・コンセントの尊重といったことが強調されてきました。そしてこの考えは倫理のみならず法理の上でも容認され、医師たちも倫理とか法律に関心を持たざるをえなくなり、私も素人ながら勉強させられています。

しかし、この領域のことは西洋流の考えが主体で素人では理解できないことも多く悩まされます。例えば、少し前のことですが、これまでWHOは健康に対する定義として「完全な肉体的、精神的及び社会福祉の状態」としていたのに、霊的ということを加えるというので問題になりました。霊的というのはspiritualの訳語ですが(適切な訳語がない)、霊といえばお化けとか人魂を思い出す

● 略歴(森岡 恭彦)

1955年 東京大学医学部卒業
1972年 自治医科大学消化器外科・一般外科教授
1981年 東京大学医学部第一外科教授
1991年 関東労災病院院長
1994年 日本赤十字社医療センター院長
1996年 日本医師会副会長兼任(～98年)
2001年 日本赤十字社医療センター名誉院長、東京大学名誉教授、自治医科大学名誉教授



程度の日本人にとっては分かりにくいし、そもそも人間には実感として認識される物質としての身体(肉体)と実感できない無形の精神とがあり、それ以外にあえて霊といったことを持ち出す必要があるのかというわけです。もっともこれまでも終末期がん患者のケアでは、キリスト教の人たちは霊的苦痛(spiritual pain)を問題にし、死への恐怖、生命の消失への不安、生き甲斐、心の安らぎについての配慮を強調してきました。キリスト教でspiritualityが語られるようになったのは、17世紀のフランスのサロンであるとされていますが、人間の心底に潜む神秘的な霊とか魂に対する畏敬の念や不安から霊に満たされた人生を送ることの重要性が指摘され、これにはキリスト教徒として真正な宗教生活の探求、信仰に基づく魂の救済が必要であるとしています(A.E.マクグラス著、稲垣久和ほか訳『キリスト教の霊性』、教文館出版部、2006年)。勿論、この問題はキリスト教だけでなくその他の宗教でも問題になることですが、信仰心の乏しい人には何故健康の定義にあえて霊を加えるのか理解し難いように思えます。またこのWHOの健康についての定義に関する提案にはキリスト教国のみでなく、中近東やインドなどの国も賛成しており、病気の原因を臓器や組織に求める西洋医学に対し、人を身体と心の統一体と考

え治療する統合医療、ないしは西洋医学とは別の流れを汲む民間医療、伝統医療を信奉する人たちの支持もあるらしいのです。

このような問題に限らず、今日では医学・医療の分野でも国境がなくなり、外来の思想がわが国にも流入し、前述のインフォームド・コンセントなども外来語のまま使われています。

ともあれ、わが国でも個人主義を基盤とする自由民主主義社会の形成とともに人権問題が強調され、医療の場でも患者の人権・自己決定権の尊重、インフォームド・コンセントが謳われるようになってきたといえましょう。しかし医の倫理についての外来思想の受け入れとなりますと、釈然としないうところもあって、私も一書を出版したことがあります（森岡恭彦『インフォームド・コンセント』、NHK ブックス、日本放送出版協会、1994年）。果たせるかな、この日本における、あいまいさをもったインフォームド・コンセントの受容について、アメリカの法学者で日本通でもあるレフラーは鋭い批判を述べています。彼は1990年頃より10年間にわたる日本でのこの考えの受け入れの過程について考察し、「日本の医師たちは自分たちの裁量権やパターナリスティックな態度の保持を望み」、アメリカでの考えと違った「informed consent」で通そうとしているとしており、また、それでも世代の交代によって結局はアメリカ的な考えに進むであろうと述べています（R. B. レフラー著、長沢道行訳『日本の医療と法』、勁草書房、2002年）。この指摘は傾聴に値しますが、果たしてそうなるのか？ あいまいさもあながち悪くないと思っている私などにとっては疑問もあります。

それでも、患者の自己決定権とかインフォームド・コンセントの尊重ということは、医の倫理や法理の上で重視され、わが国でもこの考えを基に医療情報の開示、さらにそれによる医療の質の検証と向上が課題とされています。また医療訴訟の増加と共に法律家や社会学者などが医療問題に関心を高めてきて、医の倫理や法律（医事法）についての論議が活発になってきました（樋口範雄・土屋裕子編『生命倫理と法』、弘文堂、2005年）。また私も解説書を出版したりしています（森岡恭彦『医の倫理と法～その基礎知識』、南江堂、2004年）。

ところでわが国では医の倫理とか法ということになりますとアメリカに範を求めることが多く、

アメリカの事情が気になります。しかしアメリカの医療制度は他の西洋諸国やわが国と異なって、自由競争、市場経済主義を重視しており、すべての人に平等の医療を提供するというよりも、貧困者に一定の医療を提供しそれ以上のことは自由市場、私的保険に任せるというわけで、数千万人の無保険者を抱えているとされています。これまでわが国の医療は西欧型の公的医療保険制度を中心に運営されてきましたが、最近では少子高齢化社会の進展とともに医療保険制度の破綻の危機から、医療費の効率的利用、適正配分が問題とされ、一部に市場経済原理を取り入れようとしており、医療保険では病院における医療費の出来高払いから包括払い（事前決定）への転換、患者負担の増額が行われ、さらに混合診療、株式会社の参入などの政策も論議されています。

勿論、アメリカの医療制度が最善というわけではありませんし、アメリカでも多くの問題が論議されていて、とくに医の倫理とか法の問題は複雑です。またこういった問題の論議では訴訟の判例に基づく議論が多くお国柄が偲ばれます（M. ホールほか著、吉田邦彦訳『アメリカ医事法』（アメリカ・ビジネス法シリーズ14）、木鐸社、2005年）。前述のように、今日では多くの先進国でも医療費の負担の限界から、限られた医療資源の効率的利用、適正な配分が重要な政策上の問題となっており、これまで倫理についての論議ではお金の問題は忌避される傾向にありましたが、今日では避けて通れない問題になっているといえましょう。

こういった問題になりますと、道徳哲学として功利主義が登場します。道徳・倫理には理性に基づく普遍的、直感的、絶対的則則があるとする立場と、結果さえ良ければ良いとする帰結主義があって、功利主義は後者の代表とされています。功利主義は広義には「有用性を最大の価値基準とする」ということで、有用性、利益の判断基準は幸福とか快樂であると考えている人が多いとされていますが、医の倫理の議論でも功利主義がよく引き合いに出されます。また功利主義といっても様々な考えがあって複雑ですが、「最大多数の最大幸福」と言ったベンサム言葉は有名で、医療費の配分に関しても、QALY値（Quality Adjusted Life-Year）というのが知られています。ある医療行為によりもたらされる患者の生活の質（QOL）に期

待される生存年数を掛けた値が QALY 値で、これを基に医療行為の対費用効果を計算し、医療行為に順位をつけ医療費の効率的な配分をしようというものです。しかし、これにもその計算の不確実性とか高齢者切捨て、生命の選択に繋がるといった批判も多いのです。しかし、不平等とか弱者切捨て反対とか言っていれば、「共倒れ」だということにもなります（伊勢田哲治・櫻則章編『生命倫理学と功利主義』（叢書＝倫理学のフロンティア17）、ナカニシヤ出版、2006年）。

こんなことで医の倫理とか法とかを考えれば考えるだけ、その難しさに直面し、霊的不安が高まり、健康に良くないと言わざるをえません。

● 自然科学書出版に望むこと

読者をつかむ3つの提案

八重洲ブックセンター本店3階フロア長 細田 英俊

約7年ぶりに自然科学書売場へ戻り、半年が経ちました。

マウスイヤーの時代、7年も離れていたのでは完全な浦島太郎です。それでも心強く感じたのは、昔からの定番書『ファインマンさん』あたりが変わらずに暖かく迎えてくれたことです。一方、新しいキーワード「NGN」（次世代ネットワーク）などは「おーい、（浦島）太郎君、大丈夫か？」と問いかけてきました。

自然科学書の売上が厳しい中、どのような取り組みをしていけば、読者にさらに喜んでもらえる品揃えができるかについて、自然科学書協会会員各社の方々と一緒に考えていきたいと思えます。

そこで、私の方からはショッピングセンター（イトーヨーカドー葛西店）内店舗での経験をもとに、3点ほど述べさせていただきます。

① 理系離れ防止

イトーヨーカドー葛西店は、コミック・児童書で売上の40%を占める店でした。絵本の出版社は、読み聞かせなどを行い、読書の面白さを伝え将来の読者を育てています。デアゴスティーニの『そ〜なんだ』、朝日新聞社の『かがくる』、学研の『科学』など小学生向けの科学誌は好調な売れ行きをみせていました。

自然科学書協会の活動の中に「科学技術知識普及のための〜」とあります。子供に科学の面白さを伝えるイベントなどを、書店で開催してはいかがでしょうか。

② 復刊推進

例えば、ちくま学芸文庫 Math&Science は古典

的名著の復刊も多く、好調な売れ行きをみせています。既存タイトルの掘り起こしや復刊などを検討していただければ新しい読者を獲得できるのではないのでしょうか。

③ 交流促進

当店の自然科学書担当（自然科学書一筋25年）は自然科学書協会の名称は知っていたものの、実際にどういう活動をしているのかについては、国際ブックフェア以外よく知りませんでした。店頭の本棚やプラットフォームの活性化という意味で書店との丁丁発止の議論を含めた交流や、親睦が欲しいものです。

八重洲ブックセンター本店は出版社様のご支援をいただきながら、自然科学書売場日本一の店を目指してまいりました。今後も専門書を拡販していくためにも棚づくり、提案プラットフォームの設置など、売る努力を重ねていく所存です。

専門委員会より

● 総務委員会

かねてより文部科学省から要望のあった情報公開について、理事会承認を得た全ての項目をホームページ上に公開することができました。今後は随時最新データへの更新を行うことで情報の鮮度を保ちたいと思えます。

また、前号でもご報告した通り、今期は役員改選期です。これより選挙に向けて会員の皆様には代表者名簿の確認や投票など、なにかとご連絡等が増えますが、ご協力のほどお願いいたします。

最後になりましたが、現在総務委員会では当期の第2回定時総会に向けて準備を進めております。詳細につきましては後日書面にてご案内申し上げます。

（委員長 飯塚 尚彦）

● 著作・著作権委員会

現在、かねてより懸案の複写権処理機構の一本化に向けて、精力的な検討が行われています。それには日本複写権センターの使用料規程の改定が必要ですが、センターを構成する4団体の考え方を一致させることが、難航している状況にあります。それを実現する前段階として、出版界における処理機構の一本化を実現させなければなりません。そのため出著協を組織変更して（中間法人など）、その一本化を目指していることは、すでにお知らせしている通りです。またセンターと新しい出著協の役割分担を明確にしていく必要があります。すなわち包括処理をセンターで、頒布目的などを新出著協で処理していく方向での検討が進められています。一方、JCLSでは契約企業の増加に伴って、使用料収入の大幅な増加が認められ、また製薬企業などの話し合いが一定の成果を挙げつつあります。これらの全ての状況を勘案して、新しい組織作りにも当協会も協力を惜まず、実現に向けて努力しているところです。会員各社のご理解とご協力をお願いいたします。（委員長 及川 浩）

● 販売・出展委員会

「東京国際ブックフェア2007」は、7月5日（木）～

8日(日)東京ビッグサイト西展棟1・2ホールで開催されます。当協会の年間を通して一番大きなイベントであり、準備態勢もいよいよ本格化してきました。たまたま本年はレイアウトを全面的に更新することになっており、目下担当委員を中心に具体的な検討に入っています。これまで好評を得てきたデザインを踏襲しつつ、どのような新鮮味を出せるかが課題です。

なお今年の出展目標冊数は3,000冊を予定しています。昨年の実績が2,750冊でしたので、もう少し出品の増加をお願いしたいところです。また1点あたりの複数冊出品は、これまで「2冊までとする」という制限がありましたが、今年からは廃止することにしました。各社の売れ筋本を少し多目に出品していただくのも選択肢の一つとなります。「営業担当者の腕の見せ所」とでもいえましょうか。開催日まで様々なお願いをいたしますが、会員各社の積極的な出展参加をよろしく願います。
(委員長 平田 直)

● 情報システム委員会

去る2月22日(木)14:00より出版クラブ会館にて第3回情報システム委員会を開催いたしました。当日は当委員会会員社23社中19社の出席がありました。当日の議題は、ホームページのリニューアルとICタグについてでした。

ホームページのリニューアルにつきましては、実際の画面を見ながら、委員同士で意見交換を実施いたしました。改善すべき点がいくつかありましたので、小林小委員長を中心にまとめていただくことになりました。

ICタグにつきましては、森北副委員長から現状と今後について、ご報告していただきました。当委員会会員各社にとっても有効かつ利用価値があるものと思っておりますので、引き続き研究して参りたいと思います。

(委員長 曾根 良介)

● 広報委員会

「会員社の皆様に少しでもお役に立てる広報を！」というのが、広報委員会です。しかしながら率直に申し上げますと、協会の広報紙を本当に会員社の皆様に熱心に読まれる内容に編集するのは、想像以上に難しい課題です。

現広報委員会では、そのための工夫の一つとして、協会外の方々にも積極的に執筆をお願いするという方針を採ってきました。最近はこの方針を具体化するために、流通の現場で働く方、あるいは理学・工学や医学など、協会がカバーする学問諸分野で活躍している方々に、自然科学系の出版社へのアドバイスや苦言などを寄せていただく試みを続けております。

このような試みをしましても、読者の皆様の反応はなかなか見えません。もし何か感想がございましたら、ぜひとも最寄りの広報委員までお伝えください。

(委員長 宮部 信明)

◇ 自然科学書協会役員改選 スケジュール (予定) ◇

当協会56期の役員任期が5月31日をもって満了となります。それに伴い、選挙管理委員会(飯塚 尚彦=委員長、後藤 武、森田 猛)により、以下のスケジュールで次期役員改選が行われます。

4月19日(木)	定例理事会	選挙日程の確認
4月23日(月)	当協会登録の代表者名簿の確認文書送付	
5月11日(金)	当協会登録の代表者名簿の確認締切	
5月17日(木)	定例理事会	役員候補者選考委員委嘱(理事長より)
5月28日(月)	役員候補者選出の案内状送付(役員候補者選考規程、役員選挙投票用紙、当協会登録の代表者名簿)	
6月19日(火)	投票締切	
6月20日(水)	開票	午後12:30~ 選挙管理委員会…(文化産業信用組合) 午後16:00~ 役員候補者選考委員会開催(委員長=理事長…(日本出版クラブ会館))
6月21日(木)	定例理事会	理事・監事候補者の発表
7月19日(木)	定時総会 理事会	理事・監事候補者の選任 理事長 互選

【今後の行事予定】

- ◆第56期 第2回定時総会(予算総会)
 - 日時:2007年5月17日 16:00~17:00
 - 会場:日本出版クラブ会館
- ◆東京国際ブックフェア2007
 - 会期:2007年7月5日(水)~8日(日)
 - 会場:東京ビッグサイト
- ◆第57期 第1回定時総会(決算総会)
 - 日時:2007年7月19日 17:00~18:00 定時総会
18:00~ 懇親会
 - 会場:日本出版クラブ会館

【協会代表者変更】

東海大学出版会より、当協会代表者の変更届があった。

旧代表者 高橋 守人
新代表者 大塚 保

編集後記

公益法人法改正が昨年成立し、この4月から具体的内容の検討が始まる。公益法人としての資格要件は数多くあるが、その第一にあげられたのが学術の振興である。また前号の志村理事長の記事によると、一昨年7月成立の文学・文化振興法10条にも「学術的出版物の普及」が折り込まれている。

当協会は正に学術的出版社の専門団体で、昨年設立60年を迎えた誇り高き業者団体なのだ。戦後60数年となり、驚異的發展を遂げた日本の科学技術および産業躍進の源流、学術・科学技術の文化を発達先導したのは協会会員の出版社ではないか。

そういえば明治維新以来の近代日本発展の源流もこの会員会社ではないか。協会は設立61年だが、会員社はより以上古いところが多い。会員社71社のうち、なんと100年以上前創業の出版社が9社もある。最古は1716年頃創業の叢書房。第二次大戦終結の45年前創業は当社科学新聞社も含め半数以上の40社もある。こういう古い伝統をもつ会社の多い業界団体は珍しいのではないか。活字離れ、ペーパーレス、電子ジャーナルなど、これからの新時代をどう乗り切るか正念場を迎えている。(F.1)

第55期/第56期広報委員

<担当常務理事> 南條 光章(共立出版)
<委員長> 宮部 信明(岩波書店)
<副委員長> 後藤 武(彰国社)
森田 猛(緑書房)
<委員> 井上昭彦(朝倉書店)・池田富士太(科学新聞社)・長 滋彦(技報堂出版)・拍原徹二(南江堂)・小谷正博(恒星社厚生閣)・新谷滋記(工業調査会)・田中久米四郎(電気書院)・三宅恒太郎(彰国社)・安原仁(家の光協会)・柳澤剛雄(永井書店)